



2022-2023
国際ロータリーテーマ



イマジン
ロータリー

Rotary

ジェニファー E. ジョーンズ

2022～2023年度 標語
「平和な未来を想像し、行動しよう。」

諫早西ロータリークラブ
会長 川野 弘茂



第1760例会 2022年 11 月 16 日例会記録 NO.18 天候 晴れ

【本 日】会員数 48名 出席 34名 欠席 8名 出席扱い(自薦) 6名 免除 0名 出席率 83.34%
【11/9】会員数 48名 出席 48名 欠席 0名 (MU 0名) 免除 0名 出席率 100.00%

来 訪 者



【ゲスト】

卓話者

米山奨学生（長崎北ロータリークラブ）

梁 沅錫（ヤン ウォンソク）様 国籍：韓国

米山奨学生カウンセラー

長崎北ロータリークラブ

川島 邦元（かわしま くにもと）様

【ビジター】

第 2740 地区 米山記念奨学委員会 委員

佐世保ロータリークラブ

大神 吉史（おおがみ よしふみ）様

会長の時間



川野 弘茂 会長

本日は、米山奨学生の卓話がありますので、「米山梅吉」氏と、ロータリー米山記念奨学会の誕生について簡単に説明します。

ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。奉仕の人「米山梅吉」氏についてです。米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏(1868-1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の

時上京し、働きながら勉学に励みました。19歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー（カリフォルニア州）ウエスレヤン大学（オハイオ州）シラキュース大学（ニューヨーク州）で8年間の苦学の留学生活を送りました。帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで29歳時、三井銀行に入社し、常務取締役となります。1920年、52歳時、東京ロータリークラブ設立。その後、56歳時、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。晩年は66歳時、財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業

会 長／川野 弘茂 幹 事／永井 栄次 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／毎熊 正太郎・坂本 伸二・宇土 久
HP/<http://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

に奉仕しました。また、子どもの教育のために、私財を投じて小学校を創立しました。

米山記念奨学会の誕生についてです。米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1946年、78歳で米山梅吉氏が亡くなった6年後の1952年に東京ロータリー・クラブで、米山基金設立しました。この事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

それから65年余の歳月が流れましたが、「留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕である」「民間外交として世界に平和の種子を蒔く」という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。

本日の米山奨学生の卓話、どうぞよろしくお願いします。

幹 事 報 告

例会変更および休会なし

【お知らせ】

※ガバナー事務所より

「2022-2023年度 地区大会会場駐車場利用のおねがい」
第2740地区クラブ会員：佐賀市文化会館東側駐車場

※ガバナーエレクト事務所より

「2023～2024年度ガバナー補佐推薦のお礼」
(久保ガバナー補佐宛)

※国際ロータリー日本事務局より

「第2回クラブ・地区支援室メッセージ」

※米山記念奨学会より

「ハイライトよねやま Vol.272」

😊 スマイルボックス 😊

大神 吉史(佐世保 RC) 様

：佐世保 RC 所属、米山奨学記念委員会の大神吉史です。今日は、ヤンウォンソクさんの出前卓話のため参加させていただきました。是非ヤンさんに質問をお願いします。今日は宜しく願い申し上げます。

川島 邦元(長崎北 RC) 様

：奨学生ともども宜しくお願いします。

川野 弘茂君：米山奨学生ヤンウォンソク様、本日の卓話宜しくお願いします。

辻本 善樹君：米山奨学生のヤンウォンソク様、そして川島様の御来訪ありがとうございます。私もコロナ感染より復帰しました。

吉次 良治君：川島様、大神様、ヤンウォンソク君、ようこそ諫早西ロータリークラブへ、卓話宜しくお願いします。カウンセラー川島社長には日頃より業界でお世話になっている方です。今後も御指導お願いします。

本日の合計 (11/16)	累 計 額
¥16,000	¥493,250

委 員 会 報 告

ロータリー財団・米山奨学委員会 宮本 峻光 副委員長

『ロータリー財団セミナー 報告』 日付：令和4年11月13日 場所：ホテル龍登園

- 1)開会挨拶 岡村 R 財団委員長：米山奨学生の現況、GG 補助金による奨学生は大学卒業者を対象として 3~3.5 万ドルが給付される。2022 年度に 4 名決定、1 名申請中。
- 2)上村ガバナー挨拶：日経新聞一面記事に R 奨学生事業が紹介された。コロナの影響は大きかった、現況では予防は必要だが、いつ・どこで罹るかは分からない、“死ななきゃいい”と腹を括っている。地区大会の特別講演は池上彰氏に承諾を得た、期待して下さい。
- 3)岡村 R 財団委員長の会計報告：R 財団の資金源は会員の寄付による。56 から 55 クラブに、会員は 2326 から 2098 人に減少した。事業をしたくても資金がなければ事業が継続できない。現況は 11 億 5400 万ドルの基金運用利息で運営されているが、事業継続・拡大のためにさらなる寄付をお願いする。2740 地区では活発に活動中である。
- 4)喜多 D 財団奨学委員長：2013 年より継続しているモンゴル国立母子病院を訪問、佐賀医大香月医師の口蓋裂治療や肝炎治療を視察した。一万五千ドル／人だが、財源は 500 万円ほどでギリギリの状態。未来のリーダーを育てるため・将来 2740 地区で活躍できる人材育成のため、複数年で 1～6 名は確保したい、ぜひ絶大な支援をお願いしたい。

5)瀬戸ポリオプラス委員長：P ハリスの親友、FT ルーズベルト元大統領。一人の麻痺患者の陰に 1000 人余の不顕性患者あり。死亡は小児では 1%以下だが、成人では 20%以上と高い。日本では 1980 年に根絶されたが、1961 年ロシアからの生ワクチン緊急輸入の恩恵があった。現在はアフガニスタン(6)・パキスタン(21)・マラウイ(1)に野生株 1 型が発生した。そのほかにワクチン由来の発生がアフガニスタン(43)・アフリカ各地(178)・中東(235)・ヨーロッパ(5)・米(1)などがある。根絶に近づいているとは言え、まだまだ油断はできない状態であり引き続きご支援いただきたい。

米山奨学生卓話



卓話者

米山奨学生（長崎北ロータリークラブ） 梁 阮錫（ヤン ウォンソク）様 国籍：韓国



ロータリーの友 11月号 『RI 会長メッセージ』より

2022-2023 年度 国際ロータリー (RI) 会長 ジェニファー・ジョーンズ

「イマジンロータリー」と言われても、何やら大変な、難しいことのように思えるかもしれません。しかし核となるのは本当にちょっとしたことで、個人的なものであることもあります。

ロータリーの会員は自分たちの奉仕活動を黙ってするべきだと考えられていたのは、そう昔のことではありません。その考えはよく分かります。謙虚さは美徳であり、私たちは謙虚であり続けるべきです。

しかし、ロータリーのストーリーを発信しないというのはもったいないことです。ロータリー・モメントを共有することにより、私たちは他の人にも寛大になり、ロータリーのインパクトを理解してもらう機会を与えることになります。

アメリカの活動家、マヤ・アンジェロウの含蓄深い名言が思い出されます。「あなたの言葉は忘れ去られることでしょう。あなたの行いは忘れ去られることでしょう。しかし、あなたが与えた感動は決して忘れ去ることがないのです」

それでは、どうすれば人々にロータリーの感動を与えられるのでしょうか。一番良い方法は、ロータリー・モメントを共有することです。私たち一人一人がロータリー・モメントを体験しているはずで、日常の日々の中で、何か偉大なことを成し遂げようという意志と出会う、というあの体験を。

それは初めて例会に出席した時だったかもしれません。そのような体験に気付くまで何年かかるかもしれません。奉仕した相手の目に浮かぶ喜びを見た時かもしれません。あるいは、他の会員から何か心に響くストーリーを聞いた時のことかもしれません。

夫のニックと私はこの旅を共にしてきましたが、人々の人生に変化をもたらす皆さんの活動には胸を打たれます。今年度は、この旅を有意義なものにしてくれた景色やストーリーを皆さんと共有していくつもりです。

皆さんも自分なりの方法でそうしていただけたらと思っています。例会やソーシャルメディアで共有してもいいですし、知識豊富で意欲的な人なら、地元のメディアを通してイベントを宣伝するのもいいかもしれません。ストーリーをご友人に話だけでも、影響は広がります。

ロータリーのメッセージと、よりよい世界を目指す夢を世界に広めてくれるアンバサダーが必要なのです。最高のアンバサダーはロータリーの会員です。より多くの人が私たちと連携し、入会し、会員であり続けてくれるでしょう。今後数ヵ月以内にこのコラムはロータリーの会員の皆さんのコーナーになる予定です。ロータリーの多様性、公平さ、インクルージョンに関する個人的なストーリーをここで発信してもらうのです。ロータリーの未来のために多様性、公平さ、インクルージョンが大事だと分かってもらうには、体験談を発信してもらうべきですから。何に取り組むにしても、ロータリーの世間での受け止められ方が、私たちの未来を形作ることになります。皆さんが共有してくれるストーリーがどれほど多くの人にインスピレーションを与えることになるか、今から楽しみです。

ロータリーの友 11月号 『ロータリー財団管理委員長からのメッセージ』より

2022-2023年度 ロータリー財団管理委員長 IAN H.S. RISELEY

私が RI 会長を務めていた 2017-18 年度に、環境のために 1 人 1 本植樹を、と呼びかけたのを覚えている方も多いことでしょう。皆さまのおかげで、ロータリーの名において 400 万本以上の木々が植えられました。

今月、ロータリー財団を祝うに当たって、いかなる財団プロジェクトも 1 本の木を植えるようなものであることに思いを込めましょう。希望、健康、平和の苗木を 1 本植えるごとに、私たちはいつの日かさらに広大なものへと成長する未来に投資しているのです。

ロータリーがスリランカで植えた木は大きく育ち、先天性心疾患を持つ子どもたちに今では毎年 2,000 件以上の手術が行われるようになりました。さらなる必要性を認識した地元の会員は、地区財団活動資金 (DDF) の寄贈を 17 地区に呼びかけました。財団が同額を上乗せし、総額 36 万 5,000 ドルのグローバル補助金としてスリランカ初のヒト心臓弁組織バンクが創設され、持続可能性を確保するための建物、人員、物資をスリランカ政府が提供しました。私はこの救命施設を 2017 年に訪れましたが、忘れられない経験となりました。他にも、ロータリーが植えた、数え切れないほどの「木」が立派に成長していくのを目にしてきました；1985 年には「ポリオプラス」を植樹し、その苗木は今や歴史上最も偉大な公衆衛生事業の一つへと成長し、野生型ポリオウイルスの症例を 99.9% 減少させることに貢献しました。世界中の七つのロータリー平和センターもしっかりと根付き、数十人の平和構築者と地域リーダーという見事に熟した「実」が、より安全で安心できる世界をつくるために活躍しています。

慈善団体の格付けを行う独立機関チャリティーナビゲーターからは 10 年以上、ロータリー財団に最高ランクの評価を得ています。なぜなら、財団への寄付の高い割合が、プログラムと運営に充てられているからです（昨年度は 89%）。また、効率的な資金運営だけでなく、グローバル補助金では地域社会のニーズ調査が要件とされ、プロジェクトの長期的な持続可能性が守られるのに役立っています。ロータリー財団は、ロータリアン自らが運営する、信頼できる団体です。それなのに、この素晴らしい団体を積極的に支援しているのは、会員の約 38% に過ぎません。この数字はもっと上げられるはずで、上げるべきです。会長として皆さんに植樹をお願いしたように、今度は財団管理委員長として、各クラブに今年度のロータリー財団への寄付計画を立てるようお願いいたします。

私たちが成し得る成果を想像してください。ロータリーの希望と平和の広大な樹林が広がっていく光景を。今日、その苗木を植えてください。

